第

00KSなかだ

掛 尾 本 店・コミックラボ

富山

市

掛

尾町 180-1

1076-492-1192

吕吕 il

【主な記事】

・文明は…

・スキル、その前に

旅に出たくなる

ビジネス書 の棚 から

す。でも、まだ△かな。 を買う?正解だと思 しますか?書 店でビジネス書 たい、と思ったら、まず何 「 仕 事 ができる人」にな い を

る「センスの か、ということを ありません。「仕 る ス」の観点から、仕事におけ \Box 意 か?』。『ストーリーとしての てどんな人 なのか。その答 ができる」とはどういうこと す。その名 もずばり『「仕 したら仕 事 世 界 のエリー では、そもそも「できる人」つ 識」を 争 戦 冊なのです。 は何であり、 か」という HOW TO 本では す。本書は決して、「どう 周 ちゃんと本 屋にあり 氏が、「スキル VS セン 略しの を鍛えるのか?』の山のエリートはなぜ「美略』の楠木 建氏と、 ができるようにな 正 体」に迫ってい を知るための、何ではない 事 ができる」 事 ま え

こそ ら元 も子 もないよ。 「スキル」 「センス」なんて言 正 義 · と 拳 を い出 IJ 上

> (センス)」は必 使 みたとて、「 いこなすためにも「直 要 論 なのです。 理 (スキ

るはず 範解答 ル」も。 ところでしょうか。 して色 々な棚 仕 役 立つヒントがたくさんあ(には「センス」を錬成 するの ビジネス書 に限ら 事ができる人に~ Jの模°。ですから、私 なりのすです。もちろん「スキ は、「書店に行く。そ ず、 書

ジネス書 の 棚 か 6

叩 炎 き。 上 不 謹 慎 狩 IJ, 不

たのでしょうか。 正 なにも他 一義を 人 はいった 振 りかざすように 人に対して厳 い いつからこん へしく、 なっ

やすい攻 撃 対 象 をみつけてルから外 れた人 など、わかりは、裏 切 り者 や社 会 のルーいのか?』によると、人 の脳『人は、なぜ他 人 を許せな らに近年、 ようにできているそうです す ることに快 SNSの普及 義」という に快 感 を覚 える対 象 をみつけて かり ルー 脳 さ

「 正 モンスター 散 義 さ 中 れ 毒 化 共 ے 感 著 さ 百者 はこれた ることで ま を

とで、 理解し、心 の か。「なぜ私の脳 人には寛容でありたい」と か」を客観 誰 もが「己 自

に厳しく、



書の棚 から

復

のですが、『超 限 戦』を少しがまだまだ個人 的に強かった壊 すること、といったイメージ放って相 手の軍 事施 設 を破 く」という表 現 < 変 わった 」ということが何と 読 の 。むだけで「戦 争のやり方 がですが、『超 限 戦』を少し 認識できました。「何と 姿 代 がサイバー IJ のように血 生 臭 さがな では「戦 争といえば、ミサイル 実 現を使うの 争」というも 難 攻撃や < 経 ŧ な な

ことができる。 心にとめてお 願っているのではないでしょう い一冊です。 分と異なる他 穏 的 やかに生 きる に考え知るこ は許せない 者 を

> さんをこよなく愛 する 「寅さん」からの言

芥 +

九川寅?

作

家が、シリーズ四

る

幸

せな時

であった。

本

書『い

ま、 間

幸 せ

か

い

1葉』は、

となって笑いと涙に ちの美しいこと。 タルで蘇った歴

包

ま

れ

て 組 織 によるテロに対 するいしれます。 一方で、非国 さがあります。マキャベリ 引きや利 鐘 視 して中 国が世 イタリア半 島の た中 国 人 が冷 徹にかつ的 メリカでなく、 す 分析 しているところに面 を鳴 らしていたという 極 を 戦 眈 々と狙っていたことが 、その たのは 争の 戦 湾 を 当 争 界の覇 超 傍 事 が 争 権を

> て の

面

しての人 l です。 IJ 軍 返 間味を感じます。 読 み解 きたい必 は何

書 の 棚 から

ける理

どれを言っちゃぁ

に大 写 しになった寅 さんの た D お 年 ぶりの新 作「男 はつらい が、今回 VDで繰 帰り い 寅 顔を見て、 さ 寅 ん」シリー さん」を り返 し楽 しんでき 初 めてスクリー その 観てきた。 ズニ 十 ニ 四 ょ

ベリを思 わせま まっているから する に手 察 っです。 ば ない のマキ 戦 目 争 的 ヤ にの

いっぱいに

代マドンナ

4 K

客

が

軍事力 を持つアメリカにたいが、本書 からは、圧倒的な対する嘆きからなのでしょう てタリア半島の政治状況君主論 」の動機は、当時 つ 要な点で大国間の駆け 争 が変 わったきっ .) 岸戦 えた将校 者であるア 与えた影 者であっ なの か け 警 伺 虎 白 め のの لح に

善べで表すのは難しい。ツー善人ではない寅さんの魅力果的に使われている。決して『』の面で、今回の映画に扌ネ゙ لح の合 を 場 を押 さえた名 滑 場 い私 稽を凝 傘」の中 面 も 収 好きな「 縮録 の「メロン 昭 寅 和



ら立 ち上ってくるようで 人 々の姿 や息 遣いがページ ンをセレクトした「読 む名 いるので、寅さんやまわり やりとりをまるごと紹介 り取りではなく、その前集」である。セリフー言 の中から百五十四のシー わえば、時 由 したような 場面集を を 超 を 再 次 えて の 確 騒 郎 悲 認 の場 効 名 哀 相 後 で か \mathcal{O}

直 木 賞 受

を

さ

て圧も

ハリン)。 分自 ランド・リト 烈れひ軸ポ フとサハリンに 烈な同化 政策 れるアイヌ、帝 v た走る日報に進みま ーランド人 の 台 源 太 アイヌの しく す 化 こに ま る人 物 明 本に す。 文 生 アニア。自 決 木 表 き 政ロシアの強に同 化 を迫らっ文 明 開 化にの のピウスツキをのピウスツキをい流 刑 になったるの かったり スのヤヨマネク・スのヤヨマネク・スのヤヨマネク たちを守る きるため、 に政 は期 賞 苦口 の は ました。 L 樺 川た 太(サ 越第 分 自

熱源』 ティを て、 仕 じに見えてくるような……。 としている現 自 い 迫 されていることも描 残 方 、ます。う~ん、なんだかー煌されていることも描かれ さと熱 掛かる苦難を垂主人公たちは、 ようと た てくる日 めた るた で世 分 命 玉 とグローバリズムに \mathcal{O} 国家のイデオロギーにために急激 な西 洋にために急激 な西 洋に 守りながら、 事 民 する、そのす を のイデオロギー 情 族 のアイデンティ し、人生を 難を乗り越え、 在の日本 勢 き をもとに の 淘 幾 家 かで 度 族 が 心 ₺ 汲 を ŧ 全 民 化 生 す に れ

同

Þ Τ

(7) 中 **(7)** 真 相 が

いに明

ろらかに

リーズ〉最新刊という位置づ続一郎による〈邪馬台国シースを題材にして大胆な新説をを題材にして大胆な新説をを題材にして大胆な新説をとりな謎多き人物が題楽のような謎多き人物が題楽のような謎多き人物が題ミステリーというジャンルがあミステリーというジャンルがあ 楽構をる。 統の け ミステリー なる 必 い代 る 言

き 「走 れメロス」 ラ 目 漱 石『ここ品 " そのものなは "人 物 " ではな ただし 河 走 、鉄 道 の夜 』~☆ん れメロス』~宮 2 石『こころ』~ 作 なの が なく"文 扱 で って **'ある**。 沢 芥 い 学 川賢太 る 龍治宰;作の

> 豪 それぞれで 之 介 『藪 の h れ る 。 驚 < べ されています。 説 表 S が 作 四 披を 人 露 題 の さ 材 文

動

がう

無への供物 公録 されている 庫 だと『地 とより 一層 に 一っても 作 品 表 <u></u>の 読 四 中 数の中』を再読・読の衝 撃 作 – 暴 元 されている) 作 話だ。『藪 で 作である。その真相がつらで、多重解決モノのい。 真 祖 ŧ 相 過 れ。(ちな アンチミステ 圧 言 が 厘楽しめるので、再 読 してから読作! 事 前 にんから読い 全 読 書 家に ま す がの の先 祖 とも言えの かん 祖 とも言え 明ら 巻 では の中 かの ない。 みに が لح さ 盗 いれ藪 ⊸ リ 戸潮 虚 لح える システムに思いを書に登場する人もあっもちろん、罪はるれるべき量刑 が言い渡さ

刑不事

合 規

感 対

あ

うり

渡い模された

じてし

さ

れること

は

正

しく

裁 が ま

が釣

の



を救 うかもしれ

ない。

判 員 となった

と、 新

ない。見

も し

かするとそ

見

ゃ

考

察を

場する人々や、裁

い を 馳

察を生みまれる。

れるべきであ

るが

むるの本かあ

新 書 の 棚 から

だ つ て 間 だ ŧ の

判法落自や法ま番時終 るだろう 格本官の選負 人 知 のま実 へもない。結を裁ける を識 の方 々はどうだろう専 門 家 である現 職 となったわけだが。 で な たの は تع か」ということ 結 人 格 雑 局のところ なく、ま 者 であ では、 の 裁

襲

られる凄惨な事件についてう部分もある。特に序盤でれるかもしれない(実際そるら、裁判官の重く苦しい葛安 株 州 宮の重く苦しい葛 者も、みな等を増み、被害を増み、被害を増み、被害を制み、被害を制み、被害を制み、被害を制み、被害を制みがある。 ら、 き、 き t だ。 の法服 書のタ さ 文で語 する。裁く者・、公正であら、被害者を見 れ 書名 や帯の文 面かのタイトルは『裁判官の々はどうだろうか。 綴られていると思 たし)。し 等しく 人 の 中 であらんと 間 b れてい の姿だ。 身、あり 同 ŧ 憂 について じ人 い 裁 かしな るの が葛 しながそういと思わい葛藤 かれ 自 誘 犯 身 惑 官 罪 か ま

なる ん自身が最後の評論 最後の評論集(坪線に触れたのだろう。 て ネッ で だろうと書 う べき 左 ってしまった) いていて、 論集 集(坪 あ 想 な 家

悼 内

毒なのが のお原田 ある人 でだい だった。 ついて卒 かって)人だ。福元で、私淑 -なる から、 が、 坪 学 福 大 福田りい入れの一線も悪いたくらいれる。 そして、その の 学 生 田 は 時 恆 教 当 私 ヨ然の結末内 中内 祐 三 さん 探授であった 日の弟 子 は田の弟 子 は田の弟 子 は 代 存 とい う人

坪内さんのものだけは九年の福田 恒存」はかがかると、赤線を引きながると、赤線を引きながると、赤線を引きながると、赤線を引きながると、赤線を引きながると、赤線を引きながると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きなががあると、赤線を引きない。 ていたので、当時、一番 こ処に 内 さんのものだけは 収女 処分するのだが、ある。読んだもの **「**ス トリ きながら読 一きながら読 料 を見んの卒 業 論 た「一九 残 琴

がい思がった 内 集 想 本 にさ 店 を にて、 開 催 • 坪 中 内 祐

なってしまった。 切れべき 評 論 家 かいか。 坪内 さんし もないだろう。 超 える評 論 家 いか。坪士 ども、評さ れていない ij 内さん いと まった 家を 生 亡き など 同 いてい ま < 内 じではいていたこ れ つさん は い 今 ること な ` ら < 読 なけ

る書評は、おおおおお 評はただの書評るのだけど、坪内 てしまう。 ることなくそ だったと思う。 本 いうところの「お 論家は が)」と書いている。 を 内 文藝 あるというか、(以 さんにはおかしみ 家 は 狙 けど、坪 内 さんのえ!』を読 めば分 野春 何 そ 本の書 翠 れも中野の本を紹っ 人 もいる さん 内容にごから導 内 ではな か 文 のセン けど、 し 介触しれ さ 分 か かかっ書 み か庫 下 れれ

たな いの いも 後 坪 の内 のになることは避 う読 書 人 サ 高人 生べ がつ なって、 ま け 僶

В 〇〇KSなかだ掛 \equiv 追 悼えま



一/文藝春秋)¥1,850 ·『文豪たちの怪しい宴』(鯨統一郎/創元推理文庫)¥720 【書誌情報】:『熱源』(川越宗 ·『裁判官失格』(高橋隆 SB 新書)¥830

෭෧ඁ෯෫෭෧ඁ෦෯෫෧෦෦෩෦෦෦෩෦෦෩෯෫෭෧෦෯෫

Ð Ð

0 0

シと

`モリい

てくテン物〇編

にっき年

し消世に菅

ま、 未へさ信

費界出付

の一版雅

来平れ氏

凡たは

がるイユやシま十

ピ 派

ŧ

ト定ギ

ラ

Aυ

Ιテ

ど□□「で欲一集

うで動マはな五者

て

1)

し

た。一

思るで見れデて派

さ

まにA網とス|否ン

る

て 究 も

考ト

えピ

れ研がア

冊概い者たしにィ

だ観るのらくよ肯

の意さはっ定

ア

ど会れ続を社『二

は物

っ 機

A 械

人Iか

々がら

は社離

はI

最の

適 展

な望

を

で

は

Α

Ι

ゃ

テ

動 物と

離 れて

菅付雅信

لح

ම්වූත. ප්වූණ*ාලාගුන් ලංගුන් ම්වූත*. ප්වූණ

す

福にする

AIは人

い五者INレのベ

, I= A |

人業すソ深か

の家るウ圳ら

第ル

を想線東スコう

行家の京クン人

っな研のワヴ文

世

界

市

民

一起関

材思一

てど究A

見けて

い い

菅 な

い付け

ま氏れ

て

うか

な生

取

書

の

棚

から

鳥 *ඁ෦෧෯෧෦෧෯෧෧෦෦෩෧෦෦෩෦෦෧෯෧෦෧෯෧*

学 書 羽 の 棚 枚 に

踊

5

さ

れ

家 たち 0 曲

ඁඁ෦ඁ෩ඁ෯෩෩෯෧ඁ෧෭෯෯෯෩෯෯෯

にでだい価類デはル映か鳥 面か 千~ュ大ズ画 で標っ ニのボン 学の 白ら 聞本大 強 ヴィンテ アい盗英 館い違 図原メ 奪 の う \mathcal{O} た難 万 ド は 博 し 一書作 IJ だ か 事 アメ 物 ょ だっ \widehat{z} 力 館 لح が ル う ン ・ か あ とはジ IJ け あ るんな、 _本ヵら 下 ? ア あ ニ す ら は る な るら への^オ ٽل こ の実 あ 際れ話な時鳥 | れマ

『ガ滅しウが界は英設家グ どネカリ三ず 貴な 色 ドザカ百特犯重 どア ラしたィあ屈七自博の博本 る指十然物異物書 メスたフン カ点定人品 IJ ザものはが値りのド ィが 。の五史館端 ゕオ そ 鳥 そ収のカ皮 ンガ 万博だ児 鳥 チラ をパ なオ つ 点 物 れ蔵 類 ウ のやド 4 の の け鳥骨 らさ に館た フカ リ出 コ 中 にれ ゴ にがル ウ ょ ザ 類 格 は し ヮの スに 標 うニ ^{''}、オ チ リソ 目 て じ 遺 し めでは シぼ もの前出っている。 本 、採ダョる イアをく キなバロフ約れ 。い版のミ絶集

言フびみ にーす持てン鳥狙ゾ クえが相ん全ばてる約 、はな体一税 ョニ理読 一本でを`ア抜ながら う ス年枠お Ţ トノを楽

、マス

口

なら、

まず

、は『ヴィ

の

この

家のすごさを

IJ

た

いィ越だ真こ体れつい条はつチ 。で然 こ離発関こ取な行 ン〇系んとがでをん引がだ べ九のの?何ウけに禁ワ のトよ大じシ ただう量らンら IJ とにれトのを とン飛し HCHH 1 118 1 (1777 (1777 (1

沈

画

くけのに

た生

迫

る

理の連番作な受イ

の

美

術

書

の

棚

か

5

よ紹

意いしめローロ |バジ 今バルー 披 い き ^後 ル 化 に ては化しよ したり てが企 い国業 な家は いはグ

はもス人少 すのばとたグロノ な響書文し世 いくを書切に かとようり出 こく理口回 思ろ読学がる いがま書達A まあれ `う I するるビた本 の方ジめと は

機 械 から 骨でにネ

趣

味

というシ

早』は、クラシックいたのだろう?『辛

たち

は

どん

な **١** °

食

音

バツ

1

Ŧ

ーツァ

偉

音 料 楽 理 人 ならでは 史 変 に に食文 さら 1= は 好 の の識通

実 用 は ع ŋ 食 の 棚 か は ら で あ

料理人 化本理 -ベン、 事 楽 大 を 楽 知流す。 家 な が 書鑑 音 の 書鑑のん音い賞食で楽 る 食がな る。 を楽家夫家 一違 過ごし さ庭掲面 つ し庭 れてい む:..。 でも を 料 載 理 さ たく 再 を れ ま 現 そ て 再 す で λ い 現 な るが



た通 ら eのぞくことが 角 度 で音 常 の人 物 の人 物の人! きる Ĺ ∃ | 伝 柄 優 レ で を ように 家 لح シきピま 雅 音 口 たは読 な 楽 ちまみ パ は、 す のエ 夜を のた取

り日ま都由作の地で 中で 美を品作 ょ 開 知に 術 ること 館 館 空 空 し は って こができる。が魅入ら. 金 いる て を H 曜 いる 楽 る 夜 の し の 比は がみ れ 較八 た る お

ゕ゙ゕ

が作

高 まっているこので品。近 年 世 界:

を評

すい

す な

心

館

で

催

さ

れてい

る。

ーク絵 画 展」がいとした、「ハマスホ

が東 京 だれれる

都デ

メー

ル」と

ば

れ

木

この作家 界的になれ 欧のフ

近呼

えた

絵

画

北

よ的時

あ す

る

種

の 不

味

さ

を

かのフェかに 没

7 は、7 ☆ 気 ☆

を静

ま

返

つ

室 <

で、

る向

女 < IJ

性

た

な

か

、 解 説 されてい 作い る 品 ア 家立作 口 人 にパ い。 々も l ち品 ま って、 が迫ト か で を描 ゲー い る。 。 すところ おり、 いゼ。た三代 で 響 \mathcal{O} . 【書誌情報】・『大英自然史博物館珍鳥標本盗難事件』(カーク・ウォレス・ジョンソン/化学同人)¥2,800 ・『動物と機械から離れて』(菅付雅信/

傑作が傑作を生む

民俗学の視点で

マンが版「ナウラガ

山龙

コマ単位で読む解い

京華装丁本を架蔵 すべきか悩ましいカケオ

優

道理である。

豪 華 装 エワイド版 書

装 丁

本

上 下 」

誌情

一〜七巻」(宮崎駿/報』「ナウシカ考」(赤坂

巻

徳憲間間雄

/岩波

一~六卷各書店)二二

〇〇円、「風

七の

※価格 はいずれも本 体 価 格です。七 巻 五 五 〇円 「風の谷 のナウシカの谷 のナウシカ アニメージュコミック

ていく労作だ。

体各

体各五六三一-,六卷各四三 (

円円

コミックの棚

から

旅に出 たくなる

は旅旅書 である。 場所にふらっと旅に出る記録 き先 をアンケート募 集 し、その -That に出たいと思い立つ。『ざ いてもうまくいかず、 唐突 ケ 主 人 公 がツイッターで行 森ちか 生で は、ネームをいくら Ø 人 漫 journey- 』 画 家 0 1= の 児

はまさに雑。昨日 までとは違き先 も自 分で決 めないこの旅うが、事前に計 画を立てず行 は、こちらも同 じ気 分 う 計 旅と言えば、 て 画 いるんだと感 じる 所 を立てて行くものだと思 いるんだと感 じる場 面で所に立って主 人 公 が旅にひに雑 。昨 日 までとは違も自 分で決 めないこの施 目 的 が を ねって 味 わでに

> える。 私 て羨 ましく感 じてしまうの という本 だけではないは たりばったりだが、 か ず。 が欲しい 読んで が

る方は覗いてみては実 在 しているる。鈴ヶ森 ちかいるので親 近 感かれるが、黒部十 — 巻 方は覗いてみては? 在しているので、 ヶ森 ちかのアカウント 目では四つの 近 感 もわいてく 市 にも訪 気 にな れて

の棚か

見る」ということは わかる」ということ

な自は い分 ウ ク ラ 目 国に لح で 1 つ H てか ナ て 発 は で の 馴 λ 染 絵 じ た がみ 本 て

た本は読み応えがあ

とてのような本も書 品に力がなくては

考しき飲んな一冊。

がついたが、経年劣化 ナウシカ再読熱に火

で表紙と本体が剝

かれはしない。

苦節25年の結晶

難していた。

傑

ひとつの作品を微に 入り細を吹みって論じ

そも論じられる作

赤坂憲雄「ナウシガ

旅 が どよま見る情鏡色 すフいま表 ・使絵 う ル の マ い本 で \mathcal{O} ク し 目 動 の

にうをを視のう こみ通覚かこそをうたる世報 、との絵に目世界 て しだ てけ 」は 脳で界 上 で いで目 どう で じ ろ は 見る」 て 理 く す なく い見 ズ て い 情に تع 物 うこ ろ え を い 報つ た 目 れます る る な 通ち る を い 五と لح ٦ لح لح かど T し の ら 色 な は の

で チ

る なこ

> う で は 目 か 蛍 立 まラ

し紙 たに ひ そか よれれ て 手 光に ちカ色取 لا ع

と目描 لح いいい理感 ま 解 で す き さ ま た る ま ざ 見 ょ まる す

児 童 書 の 棚 か 6

CDの棚か

さん しりとりたいかい は予 想 通り『なまえのないね いのに』。そして、三 位 が今 タケシンスケ著 」。二位はこの賞 一 九 いします』だ。 おすすめしたい『たべものや Μ OE絵 本屋 さん大賞ニ 発表になり、一位 『ころべば 常連のヨ かい い

れてはいくが確 アに溢 れた作 風 でもいくらくん」などのユーモ 激されてワクワクする。 中に残っている子 供 から大 好 きで、「いくらなん 著 者 のシゲタサヤ 子供心が覚実に自分 に、年々 カ が 昔 薄 刺の

りだという事 思っていたら、何と四 最 近、 新作を見 ないなと 年 半 ぶ

でおすし屋 さんや八 百 屋 来ない んが優 勝 ん」のつく食べ物 店街 のしりとりたいか を 目 指し は 参 ますが 加 出 さ

物が描 IJ りとりしながら読 も楽し 作 楽しいだろう。 中に い。子供と一緒にし かれ、見て に は 百 + 八 個 むの いるだけで の ŧ 食べ ょ

どうしても たくなるに違いない。そして、 勝 読み進めていくと、 最 また最 初 からしりとりし するお店 後まで読み終 お 腹 が がわかってく 空 いてしま わった 薄 (#) Þ

新 待ってい

した

い 2 4 2 5 2 2 3 3 3 v. 2. V 2 v. 2 **y**....**y**

(

とで、 ムを シラズ」からスタート。 ち。全員 ボーカルということ ロデビュー のスーパーバンド「カーリング う、フロントマンが揃った令 かも見 どころのひとつで ンバーが何 を担 ま の 説のバンドを十 分 意 曲とも言える「スベり らず者」なのですが、 IJ 終盤 なっております。八 十 年 代 もあり、夢のようなアルバムと 記念して シトーンズ」! 奏 しているようなので、どの ごとに楽 だんに盛り込んだ楽 YO-KING·トータス松 への楽曲です。メンバー自いかとの来曲です。 メンバー自い す。 ルーツ・ミュージック をふ ーンズのアルバム「氷 ームメンバーです! さてそんなカー 全 藤 知 るひとならばまさにド から起 こったバンドブー どこか懐 かし 和 器 義 集結した猛者 を 持ち メン 当している 寺 岡 五 バー 口 さ IJ 曲 周 年 呼 識 知ら って を あ リ | ングシ 上 本 しとのこ しのらったに が 感 ーのドな 身 特 演曲 和 を ソ た じ λ

【書誌情報】·『ざつ旅-That's Journey-①~②』(石坂ケンタ/電撃コミックス NEXT)各¥650 ・『目で見てかんじて』(ロマナ・ロマニーシン. アンドリー・レシヴ / 河 出 書 房 新 社) ¥ 2,000 ・『たべものやさん しりとりたいかい かいさいします』(シゲタ サヤカ/白泉社)¥1,200 ·『氷上のな らず者』(カーリングシトーンズ/ドリーミュージック)初回限定盤 CD ¥4,500、通常盤 CD ¥3,000 ※ 価格は本体価格です。